

青空に入道雲、突然の雷雨、この季節になると必ず口ずさむのが吉田拓郎の“夏休み”。半世紀前の学生の頃(1971年)のヒット曲ですが、故郷の夏を思い出してはよく歌ったものです。今年は従来どおり7月21日から小中学生の夏休みが始まります。コロナ禍で気をつけながらの生活ですが、子ども達が楽しい思い出をいっぱい作れるように願うばかりです。

コロナ感染症も皆様の御理解と御協力の成果が出て、6月20日には岐阜県に出ていた「まん延防止等措置地域」の指定が解除されました。ワクチン接種も進んでいますが、ワクチンを接種したから大丈夫という油断が大敵です。引き続き基本的な感染防止対策をしっかりとお願いします。

このところ、村民の皆様と意思疎通がうまくいっていないと反省することが多々ありました。ステイホームで外に出ることが少なく、集まって会話する機会が減り、SNSによる情報交換が日常化してきています。この現象はコロナウイルス感染症が社会にもたらした弊害だといえるのではないのでしょうか。もっと意思疎通を図れるように「村長と語る会」を積極的に活用し、意見交換を活発にしていかななくてはならないと考える昨今です。

昨年に引続いて今年も、村の応援団である村人会の皆さんと村出身の学生さん達に、少しでも元気を出していただきたいと「ふるさと便」をお届けしました。村人会の皆さんからは「東白川村の皆さんの温かい心に触れて本当に感激しました。」ふるさとを遠く離れている学生さんからは「ありがとうございました。久しぶりに東白川村を感じることができ勇気づけられました。たくさん勉強して立派な姿で東白川村へ帰られるように頑張ります。」そういった内容のお手紙やメール、お電話をたくさん頂き、遠く離れていても皆さんと心をつなげてコロナと闘いましょうという村の思いを届ける事ができ、大変喜ばしい事業となりました。

今月のCATVの村長室では「SDGs」について特集してお伝えしました。国連が定めた持続可能な開発目標、全人類と地球を未来に残していくために今の私たちが課題として解決するための17の目標が設定されています。化石燃料の消費という形で発展してきた現代社会を見直し、地球温暖化防止や差別の無い社会など、地球と人類の未来のために一人ひとり何が出来るか、何をなすべきかを考えるきっかけになればと考えています。身近なところでゴミの分別の徹底、マイバックの持参、食品ロスの減少など出来ることから始めて、環境に優しい、人に優しい村づくりがこれからの方向の一つと考えています。

災害が起きないこと。コロナウイルスが沈静化すること。

皆さんが笑顔で過ごせますようにと、孫の作る七夕飾りに短冊を吊り下げて、無病息災を祈ります。

2021年(令和3年)7月1日

東白川村長 今井俊郎